尋ねあづかりお恥づかしい事ながら、今わたしの申します事を、一通りお聞きなされて下さりませ、（相方と云ふ三味線が這入る）わたくしは心齋橋筋で、澁谷や石原と肩を並べる程でも無いが時計屋店親父は澁い事は此の上なし、堅い事は石より堅く、それに引替へ私は新町南通り木原の娼妓に馴れ染めて、通い廓の習ひとて、藝者舞子や幇間に持てそやされての大和巡り、何が時計屋の事故に、廻る物が廻ります故、汽車や車で柱掛け、こゝに逗留かしこに居續け、舞妓が酒が嫌いじや甘い物と云へば、饅頭時計やアンクルと榮耀榮華に日お送り、使ひし金が三千圓、家へ歸れば親父に眼玉、家に置けぬと追ひ出され、今更夢も眼覺し時計、後悔先に立たぬ身の上で御座ります』『フヽンすると今お前さんがこゝで死んだら、其の使ふた金は誰れぞ返して呉れるのかへ』『イエそれはあら致しまへん』『ソレ見さんせ、そやよつて、思案が若いといふのや、私はナアお前様とこの様な金目な物を商なふ商賣やない、高が知れた夜泣のうどん屋じや、モウ年を取て、肩が利かんで、車で歩いてゐる様な始末や、處が今夜うどんが二杯殘つてあるので、これを賣つてしまはうと思ふて、こゝまで來ると、お前の素振が怪しいので後ろから次いて來ると、この始末や』『そんなら、あんたはうどん屋さんだすか』『さうや』『うどん屋が蕎麥へ車で知らなんだ』『何をいふのや、いまわの際に洒落をいふてる兎も角も私の内までおいで惡ふはせぬ』むりに我家へ連れて歸りました『婆さん、今歸りました』『オヽ、親爺どんか、今晩は冷へが強いサド寒かつたやろ、お炬燵にドツサリ火が入れてあるさかいに、

早おあたらんせ、荷は私しが片附る』『しかし婆さん、今夜は客人があるのや、これお若衆、そん所に立て居ては寒い、内へ這入なされ、婆さん御飯があるか、何に無いか、どんな事やつたな、アヽうどんが二杯殘つてある、今晩はうどんで辛抱さんせ』『いへよばれましても、お金が』『コレ何をいふのや、お金をもらうと思て、たべさすのやない』うどんを食べさしてその晩は三人が押合て寢ましたが翌日の朝『若い衆』『お早う御座います。昨晩は色々御厄介になりまして、何とも御禮の申し様も御座りませぬ』『何をいふのや、これからお前さんの内へ、話にいかうと思ているのやが、お前さんの内は、どこやらといふことやつたな、フン〳〵心齋橋で、フンお前の名が島三郎、アヽヨシ〳〵』どこまでも親切な人で、それから親元へ渡つて、直ぐ歸つて來ました『島さん、行て來たぜ、お前のお親父さんに逢ふて來た、ほんに澁い堅い人ぢや、何というても取合つて下さらんので、昨夜の話を一部始終はなしたら、お親父さんのいはれるには、いつそほつといて殺して下さる方がえゝ、一時は金も入りますけれど、後で代呂物を持出したり、金を盗み出す心配がなうてえゝと言はれるのや、そこで、その様にいらぬ息子さんなら、いつそ私の方へ養子に下さらぬかといふたら、宜いようにしてくれとの事ゆへ、お前と話はせぬけども、モウ戸籍まで送つて貰ふ約束にして來たのぢや、お前も昨夜瓦屋橋からはまつて死んで、こんな内へ生れ變つたと思うて、どうぢや、私の内に居て、此の年寄二人の面倒を見てくれる氣はないか』『色々有難う存じます、何分によろしくお賴み申します』とそ